

## 試験に伴う変更

	学部学生	大学院生	教職員	本学院中高生	同窓生	学外者
入館停止	-			7月10日(火)～8月2日(木)		
図書貸出停止	7月10日(火)～8月2日(木) 大学院生・教職員は学習図書※のみ貸出停止					
返却期限日	7月9日(月)					
相互・予約 受付停止	7月2日(月)～8月2日(木) 大学院生・教職員の相互貸借・予約(学習図書※は除く)はカウンターでお申込みください					

※学習図書・・・黄色い背ラベルが貼ってある学部学生向けの図書です。バーコードラベルの末尾が「c」

## 休日開館

7/15(日)・16(月・祝)・22(日)・29(日)

開館時間は全て 12:30～19:30 です。

※同窓生、学院中高生、学外者の入館はできません。中央図書館分室は開館しません。

## 夏季休暇中(8/3～9/6)の開館時間

期間	中央図書館	中央図書館 分室	泉キャンパス 図書館	多賀城キャンパス 図書館
8/3(金)～9/6(木) 夏休み期間	9:00-19:30	10:00-18:00 ※土曜休館	9:00-17:00	
8/17(金)～8/21(火) 中央図書館蔵書点検	13:00-19:30		9:00-18:00	
8/29(水)～9/6(木) 集中講義開講期間	9:00-19:30		9:00-18:00	
8/13(月)～8/16(木) および 土・日曜日(但し、9/1を除く)	休館			

## 夏季休暇に伴う長期貸出

対象期間:8/3(金)～8/30(木) 返却日:9/14(金) 貸出冊数:10冊まで

## 泉キャンパス図書館蔵書点検に伴う利用制限について

対象期間:8/6(月)～8/8(水)

停止サービス:2階フロア全面(1階フロアをご利用ください)、機器類、AV資料の貸出不可

※図書の貸出・返却を希望される方は1階カウンタースタッフまでお声掛けください。

# 先生の本棚

4人の本学教員に、オススメの1冊を紹介していただきました。  
図書館で借りることもできますので、ぜひご一読ください。

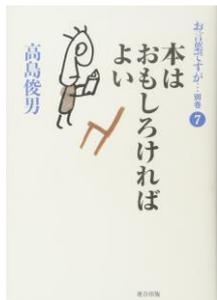
文学部・英文学科

植松靖夫 先生

## 『お言葉ですが・・・別巻7 本はおもしろければよい』

高島俊男 連合出版, 2017

(中央図書館所蔵予定)



このシリーズは文春文庫で全10冊、別巻はこの第7巻で終了予定だが、どの巻からでもよいので是非とも読んでもらいたい。高島俊男に導かれて日本語あるいは言語に対する見方・認識が一変すること請け合いです。さらに取り上げられている数々の書籍『チャリンコ』の語源は何？目からウロコの知識満載』と評された呉智英『言葉の煎じ薬』(双葉社)や周作人(木山英雄訳)『日本文化を語る』(筑摩書房)などなどにも興味が湧くはずで、本はさらに本を呼んで、本の世界が広がっていく。

工学部・電気電子工学科

足利正 先生

## 『偉大な数学者たち』

岩田義一 ちくま書店, 2006

(多賀城キャンパス図書館所蔵予定)



数学は味気ない公式の並ぶ冷たい世界だ、などという偏見が吹き飛ぶ情熱的な本である。アルキメデスに始まり、ニュートン、オイラー、ガウス等を経てアーベル、ガロアに至る19世紀中庸までの数学史が劇場の臨場感で語られている。特に代数函数論の発端を開きながら27才で亡くなったアーベル、独創的なアイデアを提出しながら世に認められず21才で決闘死したガロアの項は泣かせる。この本は最初「中学生文庫」として出版され、私は中学校時代に何度も図書館で借り出して読んだ。あとになり自身が数学者になって再度読みたいと思ったが、絶版になっていたのだろうか、長く見つからなかった。復古版を見つけた時は驚いた。今あらためて読むと当時よりずっと落ち着いた気持ちで読めるのは年齢のせいなのだろうか？

経済学部・経済学科

大塚芳宏 先生

## 『異端の統計学ベイズ』

シャロン・バーチュ・マグレイン

草思社, 2013

(泉キャンパス図書館所蔵)



最近、ビックデータ解析や人工知能が巷で騒がれています。こうしたトピックスにはベイズ統計学が多用されています。このベイズ統計学に関する書籍も実用向けに多く出されていますが、初学者には敷居が高いように感じます。小難しい数理から入るのではなく、このベイズ統計学が過去においてどのように使われてきたかを見ていくことで親近感もてるかと思います。書籍の帯にある『「異端」の理論はいかにして「先端」の理論となったか?』、刺激的なフレーズです。是非、先端の話題に触れてみてください。

教養学部・言語文化学科

小林睦 先生

## 『生物から見た世界』

ユクスキュル、クリサート

岩波書店, 2005

(泉キャンパス図書館所蔵)



これは20世紀初頭に書かれた生物学の本です。著者のユクスキュルが唱えた「環世界[=生物から見た主観的世界]」という考えは、当時の生物学界からは異端視されましたが、同時代の哲学者などに大きな影響を与えました。たとえば、20世紀におけるもっとも有名な哲学書であるハイデガーの『存在と時間』。その中に出てくる「世界内存在」という概念は、実はユクスキュルの議論を踏まえて着想されたものなのです。難解で抽象的な概念であっても、その発想の源泉を知れば、具体的に理解できるようになる。そうした意味でも興味深い一冊です。